

## 9 デュアリスダイク

デュアリスダイクはひどい雨降り  
冬も春もひどい雨降り  
そこでエニシダを採る娘は  
不吉な目に会うそうな

デュアリスダイクはひどい雨降り 5  
冬も夏もひどい雨降り  
そこで羊を飼う男は  
悲しく去って行くそうな

「クローズミュアからデュアリスダイクへ  
草地は一面の緑 10  
夏には深い緑の茂み  
三つの城壁に囲まれて

「エニシダの花はきれい  
ヒースは遊びにもってこい」  
娘はいそいそ デュアリスダイクへ行きました 15  
でも 重い身体で帰ってきました

「メイズリー ぼくは君に尽くしたよ  
この三カ月 いやもっと  
君からもらったのはささやかなキス  
おかげでぼくはひどく苦しい 20

「今はヒースの咲く季節  
あれは春のことだった  
今は葉っぱも紅葉し  
小麦も今や刈り入れ時」

ふたりが初めてキスしたとき 25

娘はうれし涙にくれました  
ふたりが二度目にキスしたとき  
娘は陽気に笑いました

「頭を絹の頭巾で  
足を黄色の布で被ってちょうだい 30  
汚い水で身体が濡れるのは  
とっても嫌なことだから」

男は絹で娘の頭を  
金色の布で娘の足を被いました  
高価な赤い薄絹を 35  
二人の間に敷きました

デュアリスダイクで 草は低く  
赤いヒースは高く生えました  
低い草と高いヒースの間で  
男は娘を手に入れました 40

ふたりがキスしたのは りっぱなお屋敷の中でも  
豪華なベッドの上でもありません  
それは高いヒースの茂みの中  
緑の草と赤いヒースの中でした

「メイズリー ぼくは三隻の船を持っている 45  
赤い小麦とワインを運ぶ船  
トップマストはすばらしく  
六十ヤードの帆が輝いている

「前の帆柱は琥珀の輝き  
後の帆柱は鋼はがねの強さ 50  
メイズリー ぼくと一緒に船出してくれるなら  
一番粗末な舟でも十分だ」

「ジョン 私があなたと一緒に船出して  
赤い岩の下を船で行ったら  
誰がお母さんの世話をするの 55

誰がベッドでお母さんの足を暖めるの

「ジョン 私があなたと一緒に船出して  
白い岩の下を船で行ったら  
お母さんの世話をする人は誰もいないわ  
お母さんの両足を暖める人は誰もいないわ」

60

それは真冬のことでした  
村人は娘の陰口をたたきました  
娘は白い海辺に<sup>かが</sup>屈みこみ  
男の船の帰りを待ちました

娘は風上に身体を向けて  
潮の流れを読みました  
泡は吹きすさぶ風に碎け  
風は大波に飲まれました

65

「白い海辺に月はない  
今日は幸運はなさそうね  
風が弱まってくれないなら  
船の行く手は危ないわ

70

「赤ちゃん そんなふうには暴れないで  
脇腹を蹴って暴れないで  
赤ちゃん もう少し辛抱したら  
ちゃんと生まれてくれるから」

75

(中島久代訳)